

所在地	長崎県長崎市
-----	--------

選定名称	長崎市外海の石積集落景観	
	仮訳	Stone-built Village Landscape of Sotome, Nagasaki

■ 文化的景観の区域・面積

	区域	面積 (ha)
選定年月日	長崎県長崎市東出津町、西出津町の全域 同 新牧野町の一部	456.1
平成 24 年 9 月 19 日		
追加選定年月日		

■ 重要文化的景観選定基準

1	●
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	●
9	
10	
二	●

■ 景観法に基づく措置

景観条例	施行年月日	昭和 64 年 1 月 1 日
	条例名称	長崎市景観条例
景観計画	策定年月日	平成 23 年 3 月 29 日
	計画名称	長崎市景観計画

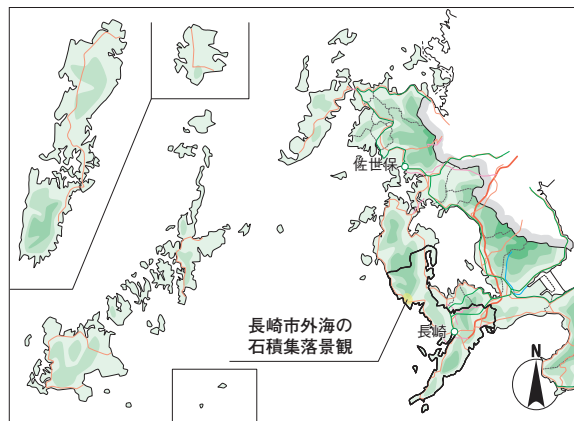
■ その他文化的景観に係る措置

各種条例	施行年月日	
	条例名称	
各種計画①	策定年月日	
	計画名称	
各種計画②	策定年月日	
	計画名称	

■ 報告書・計画書

価値調査報告書 県立図書館	書名	長崎市外海の石積集落景観保存調査報告書
	刊行年月	2013 年 3 月
	刊行	長崎市
保存計画書 県立図書館	書名	長崎市外海の石積集落景観保存計画
	刊行年月	2013 年 3 月
	刊行	長崎市
整備計画書 CiNii	書名	長崎市外海の石積集落景観整備活用計画
	刊行年月	2014 年 3 月
	刊行	長崎市
価値調査報告書(資料編) 県立図書館	書名	長崎市外海の石積集落景観調査報告書:資料編
	刊行年月	2013 年 3 月
	刊行	長崎市

■ 位置



■ その他

ウェブサイト	
備考	

選定名称

長崎市外海の石積集落景観

仮訳

Stone-built Village Landscape of Sotome, Nagasaki

選定説明

月刊文化財

588号

長崎市の北西部に位置する西彼杵半島は、ほぼ全域が標高400m前後の山地からなり、古生代の結晶片岩が広く分布している。半島の西部に位置する外海は、対馬海流が流入する東シナ海沿岸にあって温暖な気候帯に属する。地域の大半は、伐採・開墾・耕作等の人為的攪乱により、主としてシイ・カシ等からなる二次林となっている。

半島中央部に連なる山地から南西流し、角力灘へと注ぐ出津川流域には、河口部のわずかな平地および右岸に南面して形成された河岸段丘面上を中心として、小規模な集落が点在する。集落では畑作および炭焼きを基盤とする生活が営まれ、特に17世紀初頭に甘藷栽培が普及して以降は、畑作を中心として広く耕作地が開墾されてきた。文久2年(1862)に佐賀藩が作成した『彼杵郡三重賤津村、黒崎村、永田村図』には、住居・畑地・墓地が一つの単位として山中に点在する様子が描かれており、このような村落の構造は150年にわたって継承されてきた。現在も甘藷栽培等が継続されている一方で、近年はブドウ・ピワなどの果樹栽培が増加している。

明治12年(1879)、パリ外国宣教会から派遣され、外海へと赴任したマルク・マリー・ド・ロ神父は、海に臨む小田平地区に教会堂を建造した。さらにカトリックの共同組織を創設し、救助院において製粉、パン・マカロニ製造などの生産活動を指導した。ド・ロ神父の開拓に起源をもつ大平地区では、近年、耕作放棄されていた当時の畑地が再生され、住民により茶・麦等が栽培されている。

外海の高浜または出津川から採取される比較的大振り丸みを帯びた玄武岩、および斜面地を開墾した際に出土した結晶片岩は、墓石等の石造物に用いられてきたほか、多種多様の石積み構造物の材料に使用されてきた。これらの石積み構造物は、居住地・農地の土留めのために築かれた石垣、沿岸部で防波・防風のために築かれた石築地、民家の防風用として築かれた石塀、住居・蔵の壁面として築かれた石壁の4つに分類される。特に、結晶片岩は扁平で加工しやすいため、石積は水平方向に目地が通るように積む「布積み」の手法を中心とするが、構造強化のために一部の目地通りをあえて崩す「布積み崩し」の技法もみられる。また、石積みの目地に赤土および藁すさを練り込む伝統的な手法で築かれた「ネリベイ」は、石壁に多く用いられてきた。さらに、明治期には藁すさに代わって赤土に石灰を混ぜる練積みの手法がド・ロ神父により導入され、「ド・ロ壁」と呼ばれる大型の石壁も登場した。昭和56年(1981)に行われた出津教会堂周辺石垣改修の際には結晶片岩を用いて施工するなど、現在も地域での石積みに対する愛着は深い。

このように、外海では、出津川流域の斜面地または狭隘な平地において、結晶片岩を多用した石積みの特徴とする文化的景観が展開しており、近世から続く畑作を中心とした生業の在り方を含め、独特の集落景観が形成されている。近世の絵図に示された住居・畑地・墓地からなる集落の基本単位が継承されており、この地域における特有の土地利用形態を示す文化的景観であることから、重要文化的景観に選定し、その保存・活用を図るものである。

所在地	長崎県長崎市
-----	--------

選定名称	長崎市外海の石積集落景観
仮訳	Stone-built Village Landscape of Sotome, Nagasaki

■価値調査報告書目次

書名	長崎市外海の石積集落景観保存調査報告書	
刊行年月	2013年3月	
刊行	長崎市	
編集協力		
目次	第1章 序	1 調査の目的 2 文化的景観保存調査の対象範囲
	第2章 自然的特性	1 地形 2 地質 3 気象 4 植生
	第3章 歴史的特性	1 歴史的変遷 2 外海地域におけるキリスト教の歴史
	第4章 土地利用の変遷	1 絵図に基づく土地利用等の分析 2 風景画と古写真に関する土地利用等の分析
	第5章 社会的特性	1 近世の社会 2 近代の社会 3 外海地域における生業の変遷とその価値 4 外海における社会組織
	第6章 外海の石積文化	1 はじめに 2 史料に見る石積 3 西彼杵半島の石積 4 練堀建物 5 ド・ロ神父の活動に見る石積み 6 石積の技術と担い手 7 まとめ
	第7章 景観構造	1 調査の概要 2 広域の景観構造 3 集落の景観 4 まとめ
	第8章 文化的景観の本質的価値	

■保存計画書目次

書名	長崎市外海の石積集落景観保存計画	
刊行年月	2013年3月	
刊行	長崎市	
編集協力		
目次	第1章 文化的景観の位置及び範囲	1-1 計画の目的 1-2 本計画の位置づけ 1-3 検討体制 1-4 計画策定に至る経過 1-5 位置及び範囲 1-6 文化的景観の申出
	第2章 文化的景観の保存に関する基本方針	2-1 文化的景観の価値 2-2 文化的景観の地区区分 2-3 保存計画の理念 2-4 重要構成要素の考え方 2-5 文化的景観を保護するための課題 2-6 保存に関する基本方針
	第3章 文化的景観の保存に配慮した土地利用に関する事項	3-1 土地利用の方針 3-2 行為規制の方針
	第4章 文化的景観の整備活用に関する事項	4-1 整備活用の方針 4-2 整備活用計画
	第5章 文化的景観を保存するために必要な体制に関する事項	5-1 管理運営に関する基本方針 5-2 管理運営のための体制づくり 5-3 実施に向けての課題
	資料	1 重要構成要素の一覧 2 重要構成要素の一覧(詳細) 3 重要構成要素の位置図

選定名称	長崎市外海の石積集落景観
仮訳	Stone-built Village Landscape of Sotome, Nagasaki

■ 価値調査報告書目次

書名	長崎市外海の石積集落景観調査報告書 資料編	
刊行年月	2013年3月	
刊行	長崎市	
編集協力		
目次	I 社会的特性の関係資料	1 出津地区の民俗 2 周辺地区の民俗 3 出津地区とその周辺の民俗の特徴
	II 外海の石積文化の関係資料	1 石垣調査 2 石積みと土地利用との関係性 3 代表的石積み事例における3次元測量調査 4 ネリベイ建物調査 5 ネリベイ建物の目地材の成分分析 6 墓地および墓石調査
	III 景観構造の関係資料	1 住民アンケート調査 2 来訪者アンケート調査 3 地域座談会

選定名称

長崎市外海の石積集落景観

仮訳

Stone-built Village Landscape of Sotome, Nagasaki

■重要な家屋一覧

種別	員数	所在地	告示日
		長崎県長崎市	
建造物	1 棟	西出津町字橋口 2930 番 2	平成 25.3.29
建造物	2 棟	東出津町字高平 720 番、721 番	平成 25.3.29
建造物	1 棟	西出津町字小田平 2552 番 1、2560 番 1	平成 25.3.29
建造物	1 棟	西出津町字内平 1129 番 1、 1129 番 3	平成 25.3.29
建造物	1 棟	西出津町字内平 1143 番 2	平成 25.3.29
建造物	2 棟	新牧野町字内平 285 番 4	平成 25.3.29
建造物	1 棟	新牧野町字岩瀬戸 154 番	平成 25.3.29
建造物	3 棟	新牧野町字西柄石 543 番	平成 25.3.29
建造物	3 棟	新牧野町字西柄石 544 番 2、 544 番 3	平成 25.3.29
建造物	4 棟	新牧野町字辻 1278 番	平成 25.3.29
建造物	3 棟	新牧野町字辻 1321 番 2、 1338 番 1	平成 25.3.29